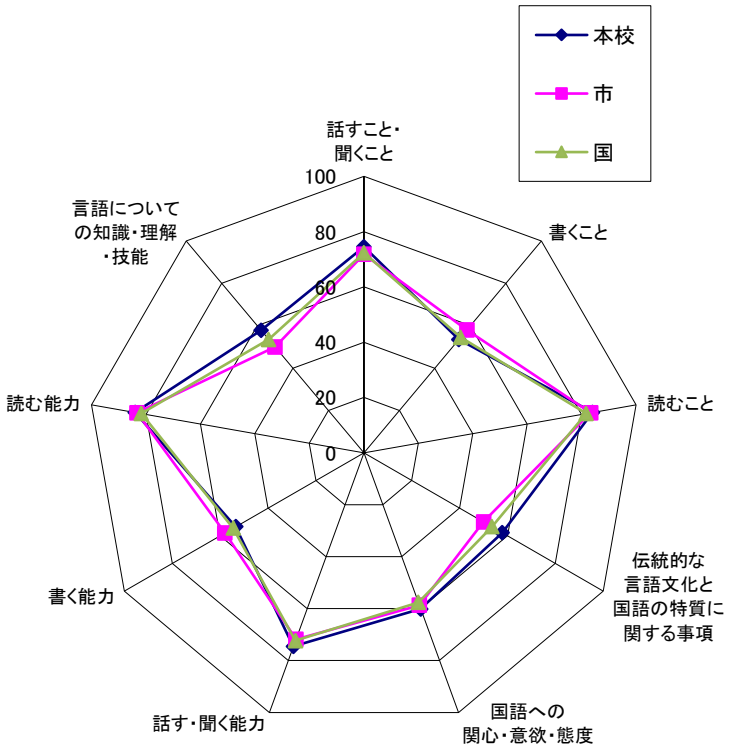


宇都宮市立横川中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	74.5	71.8	72.3
	書くこと	53.5	58.0	54.5
	読むこと	84.0	83.3	81.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	57.8	50.0	53.5
観点	国語への関心・意欲・態度	60.1	58.7	57.6
	話す・聞く能力	74.5	71.8	72.3
	書く能力	53.5	58.0	54.5
	読む能力	84.0	83.3	81.7
	言語についての知識・理解・技能	57.8	50.0	53.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話すこと・聞くことの平均正答率は74.5%で、全国平均より2.2ポイント上回っている。特に、目的に応じて、質問を工夫したり、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめたりすることがよくできていた。 ●話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をするという設問の正答率がやや低い結果となっている。	・国語の授業を通して、ペア、グループ、全体で話や説明を聞く機会を多く設け、伝えたい目的を明確にして話したり、メモをとったりするための観点を提示して指導する。 ・朝の会や各教科、学級活動などの時間において、テーマに基づいて話したり、質問したりして、コミュニケーション能力を高めていく。
書くこと	●書くことの平均正答率は53.5%で、全国平均より1.0ポイント低い。情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えて考えることや、目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くという設問の正答率が低かった。 ○図表やグラフなどを用いた目的を捉えて書くという設問は正答率が全国平均より1.6ポイント上回った。	・目的や意図に応じて、条件に合った適切な情報を選んだり、書き方を考えたりして、内容が分かりやすく伝わるように指導していく。 ・週に1回課題作文の宿題を出すことで、課題に沿った内容の文章を書く習慣を付け、場に応じたふさわしい言葉遣いで書くことのできる力を高めていく。
読むこと	○読むことの平均正答率は84.0%で全国平均より2.3ポイント高い。特に、知りたいことを調べるために選んだ本の目次の一部から読むページとして適切なものを選択するという設問の正答率が90%を超えている。 ●目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことを趣旨とした設問の正答率がやや低い結果であった。	・5W1Hを意識させ、文章からの確に読み取ることができるように指導する。 ・登場人物の行動や会話、情景描写などから、登場人物の心情が暗示的に表現されている叙述を見つけ、登場人物の心情を捉えることができるように、物語を読んだ後、ペアやグループ、全体で、考えや思いを聞き合う場を設ける。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の平均正答率は57.8%で、全国平均より4.3ポイント高い。ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いるという趣旨の設問に対する正答率が高かった。 ●漢字を使って書き直す設問「調査のたいしょう」「かんしんをもつ」の正答率がやや低い結果であった。	・漢字の部首や熟語、書き順、文の中での使い方にポイントをおきながら、新出漢字について指導していく。 ・慣用句やことわざ、故事成語などの意味や使い方を繰り返し復習したり、授業の中で取り上げたりして、日常生活でも使えるように意識を高める。